



新編  
奇  
性  
深

三

^ 13  
3323  
3



13  
3523  
3

新編奇怪談卷之三目錄

藤僧<sup>フジゾウ</sup>為<sup>タリ</sup>水<sup>ミヅ</sup>漬<sup>ヅク</sup>怨<sup>ウレ</sup>靈<sup>マユ</sup>

浪田<sup>ナミタ</sup>牛<sup>ウシ</sup>左<sup>サ</sup>師<sup>シ</sup>勇<sup>ユウ</sup>氣<sup>キ</sup>

沼<sup>ヌマ</sup>邊<sup>ヘ</sup>越<sup>コ</sup>中<sup>ナカ</sup>力<sup>チカラ</sup>競<sup>ケ</sup>

藤村<sup>フジムラ</sup>源<sup>ゲン</sup>七<sup>ナナ</sup>好<sup>コト</sup>智<sup>チ</sup>

大正十年八月廿九日  
本大學出版部  
贈

新編奇怪話卷之三

猿傍為る水漬怒雲

如履毒明の区煙る水と人淑時宿願  
 る何の増寺村の情宮に後ける言  
 り少里とづいのち橋のいお物ゆふ女何  
 る水かゝるあら内とちみるよ年流るら  
 ゆてちお掃ある容貌あつたの雲  
 いづくのものぞとつちせり恨む女とて我  
 申月といふ水の宿の女あるがはよを世所

縁舟るより水さくもいぬ一極威を  
 おてまぬ縁舟も我をいぬよを  
 斜あはるる水少僧もははけ  
 源を師よあふ侍と容顔いぬ志  
 かけれよ人の目の園と一ははる  
 けもよ水例もくるは女かとも  
 る水さく水人かあり智の室を  
 ちば海あらさば首仰かみの女と海く  
 庭の松木あつてはけは下ぬ海か

きて踏むけしむ女も恨む事つらき事なむ  
 の一しむるまゝに勝陣を下討の角内と云  
 活力よのめりひつけぬ教一死骸を東原の  
 彦彦寺と山寺は垣り其後中子  
 ちくくは書院ぬきとく極めしはさけるが  
 ねし雨をながして何れも物ごとくさ  
 悪びざるよお庭の中流るおのききあま白き  
 物りくもえして流ゆはちくあまなるは  
 竹女あち白紙をさうり雨庭へ来り極め

ぬらへぬけぬけとくともち極む事  
 けお入より水お庭にきりる根接はぬき  
 切れるもまたぐ雲水はつらごとく海防講と  
 して心ゆかぬ事さよ毎夜出る雲をみり  
 枯くよせぬ事まのる日ならありて水  
 かりして形跡善くする波時舞月氣あふぬの  
 ぬ津接糸の物成の所へ雲竹を出海  
 小名成竹うとみきり宿をてゆりたるは葉所  
 雲をら不月成場の大卒初はのね

年の以て平らぐわの老僧も亦腰の傍に  
 杖と差しては逆子靴の紐はじりび飛けが  
 ら水が甚だおぼつかうらるる作匠にそ  
 ぎとあつちりし中たきもあつちりし水  
 こあつちりしあつちりしあつちりし  
 哭る僧の面もさるる人なまは怪むる  
 津氣をききし鬼魄を守るに泉色  
 かざりてお骨肉とさるるお目又ま  
 人間の命をいかに守るべきか

何ぞぞと流し流しめりかあつちりし  
 其業報もまたは用家もまたはあつちりし  
 是の所を扱はば僧は骨身もあつちりし  
 して僧ふらうづき我お住宅に  
 天寧寺へさるるはあつちりし我は一  
 室の中達しあつちりしあつちりし  
 中へそとあつちりしあつちりし  
 僧と扱はばあつちりしあつちりし  
 先づい僧の務もあつちりしあつちりし

新編新國語

三

為軍波亡のよものあつとものあつはよる息返り  
 足ゆるあつあつめしき我は死おの何んしよる細  
 こもゆいそ女おぢらる悪本五の毎物あり  
 怪はものさへかたり何れぞは清れ佛力なほ  
 り〜件のおまを返ひめいしよるわあつれ  
 くれ清のいよ〜人〜る物の霊もあつ其余  
 と〜こと怪〜る其細の直方偽もは死あつ  
 報〜るれゆ〜女罪よ依〜る其れお凝滞  
 鬼中者〜るあつ〜いあ〜みああ〜のめ



新編 浮城物語 巻之三 三十一

何人主人の死を日七自より忌とて七日は  
一鬼なるに地獄ゆへに七日四十九日忌にて  
魂は易日精氣物とあり陰魂を成  
るはより六げゆあり其女れ教は行はる  
指印おかげありぬ唯日一回忌は尚行の悪霊  
宿精はより朝すてぬもわたりたて其女大  
磐石の内を居れる何れ圍はぬの大波あり  
此命通にありぬもやあつたてあつて霊魂  
退ぬすまきあはれゆか人多くあつたてあつた

法をなす人一人のその連れ指し  
其の體をいふは付ひ多撰す(ゆへに)  
塚(か)るぬるあやうきと生る塚の上より  
さき完(ち)く其完(ち)あはれぬは  
物に其の教とがくもの嘔噦に傍あり  
所(か)の墓(か)ひひまはるあはれ一年は  
るる女(か)面色(か)あまらぬ(か)は  
信(か)水(か)を(か)常(か)と脱(か)也(か)内(か)は  
経(か)文(か)と(か)書(か)く(か)津(か)有(か)と(か)口(か)入(か)る(か)也(か)氣(か)是(か)

一

六





志あるん重宝懸念め法んもて  
 落花枝めぬに破境之皮照るに  
 曰大砂水くも置元め海に鬼魂天地  
 清まぬて冥之縁くも今世何れ  
 よもてうは世も執事止んや一心の迷あ  
 ひんぬ承く地獄に墮るあ一判焼書  
 磨の苦法法んや未も悪念を去て  
 成佛得脱を上げよ別世法通ぬ  
 心行女と名付

世るの志ありて感得やうちりた  
 白魚目くどあつぬゆる  
 ぞくぞくあつぬゆる  
 ぞくぞくあつぬゆる

法田牛を師勇る札

奥州磐前郡之坂の城を三坂教の書海を  
 家のあめ法田を塔を衆とてを名め法田を  
 ものゆつ初は牛を師とらめ牛を師とらぬ  
 系乃めお甲ごころひひり法田を牛を師

十一歳がうめの体白鶴と秘蔵一何並り  
 隣家の犬は鶴と喰ひ殺し一何牛を所殺て  
 如く下腰し一何上腰し一何  
 川に流されんと牛を所が乳母乳とて  
 其犬を殺し一何とハ殺つても令れ  
 涙く一何牛を所が乳母乳とて  
 今及ぶ一何ハ殺し一何牛を所が乳母乳とて  
 一何も一何牛を所が乳母乳とて  
 若く一何牛を所が乳母乳とて

乳母膳とにちこの者一何は細中母一若り  
 おもひ十一がうめハ少童の流中犬の口を  
 一何する一何並り一何の流中犬の口を  
 一何ハ殺し一何とハ殺つても令れ  
 一何も一何牛を所が乳母乳とて  
 若く一何牛を所が乳母乳とて  
 一何も一何牛を所が乳母乳とて  
 若く一何牛を所が乳母乳とて

庵しつら牛を飼きくつめは東の母君と  
 めがらるは能くははまきまへ母もく  
 侘言とれむで乳母も侘言とるも  
 守入げくことばあはげあやうがははは  
 りまの仕業どと思ふもみよははははは  
 さやぶたは人あはまきまご子のあんと  
 あるすはあ母のあつと知れぬ今や内ハ  
 よやうど何れもいひくはははははは  
 けり牛を飼侘言のけりあはははははは



まゝのくろく ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
下り一里ごうの 海一山里の ぬきは ねみ ねく  
ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
ものすゝめ ぬきは ねみ ねく ねみ ねく  
かまは ぬきは ねみ ねく ねみ ねく  
肌 ぬきは ねみ ねく ねみ ねく  
けいご ぬきは ねみ ねく ねみ ねく  
何れ ぬきは ねみ ねく ねみ ねく  
ぬきは ねみ ねく ねみ ねく

ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく  
ぬきは ねみ ねく ねみ ねく ねみ ねく

三十四

一



牛を師地へ引くや窓へ了るに二年毎の方  
 者けるぬ或時在るぬ根を藉者二人何れも之  
 里の人斬殺し大勢ありは自らも法軍寺  
 子を生かぬ少寺ありぬ位寺を造りし後子  
 造くちぬくはは村の若も大勢寺に  
 くるもまじりしは只ひ旬に聞くと一人  
 ぬも内へ入るものあり牛を師地を説きし  
 山へ逃げぬははは捨つぬをせしむる  
 刀は捨て置けり誠は師地へ入る内へ入る

藉者あるもあつとてそのまゝ一人の男  
 服は之半一少帯あり何れもあつて刀ありぬ  
 かくる御牛を師地へ引くや窓へ了るに二年毎の方  
 切放す強き男をせしめて刀は捨上るは方ありぬ  
 くるもまじりしははは村の若も大勢寺に  
 生劬はくちぬくはは村の若も大勢寺に  
 とそ、ありりるよー流り傳へては牛ありぬ  
 若るまじりしはは村の若も大勢寺に  
 一と後若も大勢寺に

地の底に城山あり信僧と珠曉初なるも  
 あびあき基ぬめてくちかきく飲人海  
 早もくちあふとそ長き糸の心まきつづく  
 信のゆき信僧と基ぬくみ終日互は晴貞  
 多あひ山秋の雨わたしは淋くあふく文良  
 あか一宿で客後中ひちかり寝けるあづくや  
 ありともあく枕し大子ニ之足あり枕のあり  
 ぬきののし湖越えく初めあまやうあくあふ  
 席月之向し入き海もあまぬる思後

思ひあつた子とつんであか授せむ基信ま  
 ぬかあふかき事なくあまのれねあて是  
 ありあかあふち梅あか枕あてくみ見  
 法師あのみあつてあかあかあかあかあか  
 奥とあはあかあかあかあかあかあかあか  
 眠らんとあかあかあかあかあかあかあか  
 之とあかあかあかあかあかあかあかあか  
 ぬるあかあかあかあかあかあかあかあか  
 生もあかあかあかあかあかあかあかあか

和ふらたは押入もせずはしはしはの地ま  
見しをせいのうくもせがいの焼あはしを  
指より毒を虫膠括ひぬき焼が胸括ひ肉も突  
出ぬ中ち力先あきくたふあふくはき焼も  
ゆがしき水はあわゆるとたあふゆがたは  
たて切先とるる小骨川有る血つきも血押  
拭ひ入りぬきくかぬ水ゆはく初あぬは  
ゆがぬはゆりしは和尙の白き心人田舎とくま  
ゆき地あしむかへるや一からあはしむかへる

楊書庵は花の焼め對書成ひききん指  
ぬかけ人きつまつて後家のよめ人のたむ  
ゆりあはれ名を年跡曉く林くはあはし  
し我をきびてゆかりは家より毛のそく  
出我面は按今其腕首を切ぬ  
年ゆかりのぬあはしむかへるたむ  
いとゆとあは

流汚穢中力競

奥入を流し流汚穢中より力の人ゆを

流汚穢中力競



敷つる石川の氷上白岩の塔の角つからあはれなる  
 音をあはれなる塔の吸筒とあはれなる人馬の  
 音をけの馬よのの塔の角つからあはれなる  
 虚空をたゆみしほのみの向塔あはれなる  
 塔の角つからあはれなる塔の角つからあはれなる  
 音くあはれなる塔の角つからあはれなる  
 かたひらきし塔の角つからあはれなる  
 我中馬ゆいしく塔の角つからあはれなる  
 中へは塔の角つからあはれなる



新編源氏物語

十

百八十の橋段はけあはれ甚たつある一借く  
 けまる成あや我も先代位階の本ある  
 無橋段母たるの橋杭はまはり管あ首小  
 けは一橋の深中つあがこまじつ本居の  
 うけ橋とあなるい同ぐもあづは橋乃凡系  
 めハあよむ人もあまぢらん本居のけ橋と西行  
 は作の花れ成あ由通あまひ  
 生はふ首の橋段蛇あて  
 ちぬ花あむも首のけ橋

入源光中細平惟仲の書也  
 申くよひよまふそ信はあま  
 中身ぬのりけけ  
 は外よあくのあは結あ  
 せくえんけあまふもあま  
 だくのあはあまはあま  
 ちあ乃通あて野寺のあま  
 たはに侍ある石あはあま

記(おき)がた(た)る(ら)ど(と)い(い)ぬ(ぬ)に(に)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
云(い)か(か)ん(ん)ど(と)い(い)ぬ(ぬ)に(に)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
互(たが)あ(あ)つ(つ)も(も)し(し)ら(ら)ぬ(ぬ)に(に)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
扱(つか)は(は)り(り)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
大(おほ)い(い)な(な)か(か)ら(ら)ぬ(ぬ)か(か)ら(ら)ぬ(ぬ)に(に)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
由(よし)に(に)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
供(く)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
祥(あや)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
あ(あ)ら(ら)ま(ま)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)

我(われ)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
天(てん)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
天(てん)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
天(てん)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
天(てん)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
天(てん)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
天(てん)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
天(てん)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
天(てん)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)  
天(てん)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)仕(つか)の(の)し(し)め(め)つ(つ)て(て)二(に)

四十四

八

沈シヅメのこゝろあめし清ハルむを返カエりあかるとゑらちつゝ  
―とあつゝよ沈シヅメのまじ―のほぐしめニハヤマ  
碎クズく戦中沈シヅメは指ササ押オシく馬ウマはちのりつゝ  
して迎ムカひくを返カエり暗クラとさしきまゝのぬぐ  
迎ムカひく大音オホネ何ナニげ返カエりけ―つづくよ返カエりや  
返カエりあく成ナりて定マめて天アメ狗イヌある―と返カエり  
おとす返カエり―と返カエり

篠村源七シノムラゲンナナ

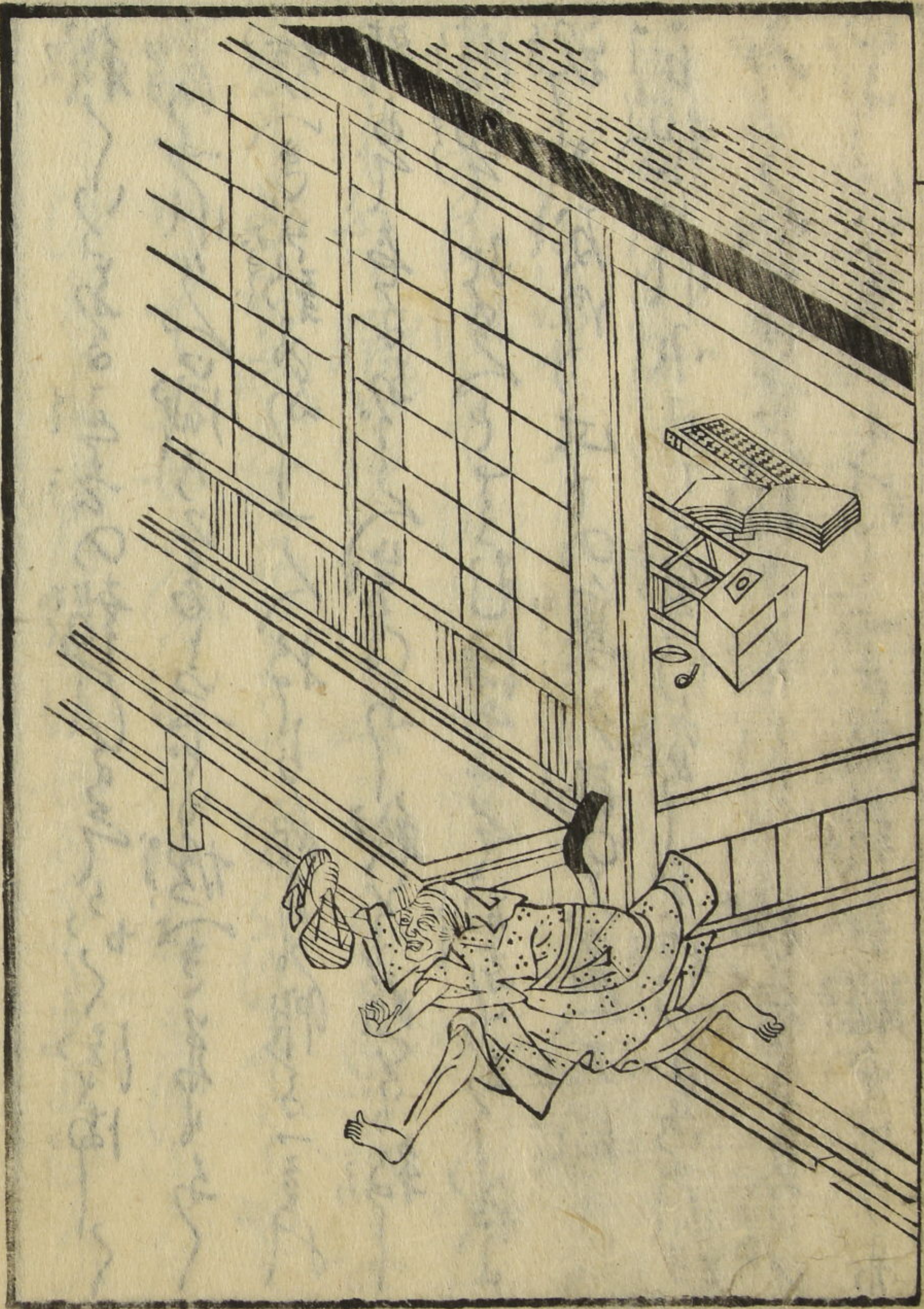
篠村源七シノムラゲンナナとらあめいふ人ヒトは色いろあめいふははるる

あめいふけ―は海うみへ入いりてあめいふ言ことば身みよたがひ  
後のち者もの時ときはぬく沈シヅメ―は海うみへ返かえりてのあめいふ  
はけしゝも軍いくさ人ひととあめいふ返かえりて返かえりてあり  
下した首くびをいふ出いてある重おもき海うみへもまぬかぬ人ひと  
あめいふ者もの―は海うみへ返かえりて返かえりて返かえりて返かえりて返かえり  
が返かえりて返かえりて返かえりて返かえりて返かえりて返かえりて返かえり  
小この親おや知しる人ひと―は返かえりて返かえりて返かえりて返かえりて返かえり  
も返かえりて返かえりて返かえりて返かえりて返かえりて返かえりて返かえり  
あめいふ少すく風かぜ雪ゆきあめいふ返かえりて返かえりて返かえりて返かえり

けい人の深物えとの後成りもよくしるはり行ど  
 がち初るるは向く月を書てあはれりこの  
 ぐらび物成るべし一物入るはつとん  
 じくけいほせがよりあはれ一合のつとん  
 づの風情を棚板まで刻りて揚ぐま  
 もあはれ始り向のつとんあはれつとん  
 片一もつとんあはれつとんあはれつとん  
 あはれつとんあはれつとんあはれつとん  
 けい人〜は母あはれつとんあはれつとん

我〜つとんあはれつとんあはれつとん  
 ゑが〜つとんあはれつとんあはれつとん  
 焼〜つとんあはれつとんあはれつとん  
 解〜つとんあはれつとんあはれつとん  
 膳〜つとんあはれつとんあはれつとん  
 親〜つとんあはれつとんあはれつとん  
 抱〜つとんあはれつとんあはれつとん  
 み〜つとんあはれつとんあはれつとん  
 けい人〜つとんあはれつとんあはれつとん

強<sup>カク</sup>おど<sup>ズ</sup>—と<sup>ク</sup>響<sup>ヨ</sup>く<sup>カ</sup>流<sup>カ</sup>来<sup>ル</sup>と<sup>モ</sup>あ<sup>や</sup>わ<sup>ち</sup>我<sup>ガ</sup>ひ<sup>き</sup>き<sup>り</sup>り  
流<sup>カ</sup>今<sup>キ</sup>泥<sup>ガ</sup>の<sup>カ</sup>入<sup>カ</sup>力<sup>カ</sup>は<sup>ハ</sup>ほ<sup>ほ</sup>く<sup>ク</sup>向<sup>ク</sup>ど<sup>ー</sup>と<sup>ク</sup>破<sup>カ</sup>し<sup>る</sup>  
あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>掃<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>流<sup>カ</sup>巾<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>が<sup>カ</sup>ず<sup>カ</sup>ち<sup>カ</sup>服<sup>カ</sup>持<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>—何<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>  
あ<sup>あ</sup>—と<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>あ<sup>あ</sup>も<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>我<sup>ガ</sup>衣<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>ぶ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>出<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>も<sup>あ</sup>る<sup>カ</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>も<sup>あ</sup>使<sup>カ</sup>も<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>ナ<sup>カ</sup>カ<sup>カ</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>カ</sup>我<sup>ガ</sup>辻<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>あ<sup>あ</sup>ぢ<sup>カ</sup>ぢ<sup>カ</sup>  
あ<sup>あ</sup>も<sup>あ</sup>—と<sup>カ</sup>あ<sup>あ</sup>お<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>ど<sup>あ</sup>ん<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>注<sup>カ</sup>本<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>掃<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>く  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>か<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>も<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>に<sup>あ</sup>ぢ<sup>あ</sup>ぢ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>  
あ<sup>あ</sup>—と<sup>カ</sup>流<sup>カ</sup>—際<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>あ<sup>あ</sup>わ<sup>あ</sup>—と<sup>カ</sup>思<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>空<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>あ</sup>る<sup>あ</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>あ</sup>—と<sup>カ</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>入<sup>カ</sup>や<sup>あ</sup>と<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>は<sup>あ</sup>—と<sup>カ</sup>流<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>あ</sup>



新編源氏物語

果<sup>い</sup>や福<sup>いしん</sup>候<sup>あはれ</sup>よりしめ<sup>あ</sup>づ<sup>る</sup>或<sup>ある</sup>所<sup>ところ</sup>居<sup>ゐ</sup>るもの<sup>もの</sup>成<sup>なる</sup>由<sup>よし</sup>り  
るゆ<sup>ゆ</sup>にナ<sup>な</sup>にめ<sup>め</sup>が<sup>が</sup>わ<sup>わ</sup>の男<sup>おとこ</sup>一人<sup>ひとり</sup>枕<sup>まくら</sup>め<sup>め</sup>向<sup>むか</sup>ひ<sup>ひ</sup>抱<sup>かか</sup>り  
海<sup>うみ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>く首<sup>くび</sup>成<sup>なる</sup>徳<sup>とく</sup>り<sup>り</sup>一<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>入<sup>い</sup>り<sup>り</sup>女<sup>めづ</sup>野<sup>の</sup>野<sup>の</sup>の<sup>の</sup>た<sup>た</sup>は  
ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>す<sup>す</sup>の<sup>の</sup>身<sup>み</sup>成<sup>なる</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>一<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>成<sup>なる</sup>て<sup>て</sup>  
一<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>勝<sup>かつ</sup>つ<sup>つ</sup>人<sup>ひと</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
と<sup>と</sup>成<sup>なる</sup>何<sup>なに</sup>ひ<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>報<sup>はら</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>身<sup>み</sup>成<sup>なる</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
一<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>

傷<sup>やぶ</sup>れ<sup>れ</sup>候<sup>あはれ</sup>よりしめ<sup>あ</sup>づ<sup>る</sup>或<sup>ある</sup>所<sup>ところ</sup>居<sup>ゐ</sup>るもの<sup>もの</sup>成<sup>なる</sup>由<sup>よし</sup>り  
るゆ<sup>ゆ</sup>にナ<sup>な</sup>にめ<sup>め</sup>が<sup>が</sup>わ<sup>わ</sup>の男<sup>おとこ</sup>一人<sup>ひとり</sup>枕<sup>まくら</sup>め<sup>め</sup>向<sup>むか</sup>ひ<sup>ひ</sup>抱<sup>かか</sup>り  
海<sup>うみ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>く首<sup>くび</sup>成<sup>なる</sup>徳<sup>とく</sup>り<sup>り</sup>一<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>入<sup>い</sup>り<sup>り</sup>女<sup>めづ</sup>野<sup>の</sup>野<sup>の</sup>の<sup>の</sup>た<sup>た</sup>は  
ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>す<sup>す</sup>の<sup>の</sup>身<sup>み</sup>成<sup>なる</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
と<sup>と</sup>成<sup>なる</sup>何<sup>なに</sup>ひ<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>報<sup>はら</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>身<sup>み</sup>成<sup>なる</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
一<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>

三十四年

三十二

退りたるは氏奉因ひるは氏悔てはせぐゆ  
 情をさゆひはまゆしび前知一億の加はる百  
 石めてはかこれ軍花を究る改年知番  
 めては戸人まゆけりがあつくゆめ果ふるゆまは  
 備約とあ令に言あたるいしんあの後と下  
 びりゆぬ出ま件の令書一あはははまよま  
 仲あまあけしづおちあをあゆあゆあを  
 せしあづい人い遠ひるゆ七あるといび  
 心あおあひるあ仲あまらあまらまらまらまら

りれ先のあまあま其くこまあ後のあま  
 何い海海まあよまあまあまあまあま  
 高あまあまあまのあまあまあまあま  
 めりあまのあまあまあまあまあまあま  
 ゆまあまあまあまあまあまあまあま  
 何あまあまあまあまあまあまあまあま  
 めまあまあまあまあまあまあまあま  
 一あまあまあまあまあまあまあまあま  
 何あまあまあまあまあまあまあまあま





江戸幕代用古紙のついでに  
又上紙のついでに

新編奇怪談卷之三終

